

生活を支える税金

豊岡中学校 三年 関川 恵

私は母子家庭で育ち、兄と二人兄妹だ。

お金に余裕があることはない。けれど私は今日まで「お金がないから」という理由で十分な暮らしができなかったことは一度もない。むしろとても恵まれた生活だと思う。そう思えるのは日々の生活を支えてくれている「税金」の存在があるからだ。税金は私たちが生活していく中でかかせないものであり、暮らしの様々なところで使われている。

一時期私は、住んでいる市ではないところにある病院に通院していたことがある。診察を終え、母がお会計をしているとき、ふと視界に入った金額が私の想像よりも高額な値段で驚いたことを覚えている。思わず「こんなに高いの？」と母に聞くと、「この紙を市役所に出すんだよ」とレシートのようなものを見せてくれた。あの時のことを思い出し、気になって調べてみるとこれは、子供医療費という、中学校卒業までの医療費や薬にかかるお金を自己負担せずにするシステムだった。また、私のような「ひとり親家庭」では十八歳までこの制度を受けることができる。病院に行き、診察をして、薬を処方してもらおう。今までなんとなく当たり前だと思っていたことだが、みんなが平等に医療を受けられることへのありがたみを忘れてはいけなかった。そして、何万人という子供たち全員分の

負担をしてきている税金の役割がどれだけ大切なものなのかを知れた。去年導入された軽減税率制度に対して、負担が増えるからとただ不満を言うのではなく、税金がどのように使われているのかをもう一度理解しようとする必要があると思う。私たちはいつも見えない誰かに支えられて生きている。福祉などの社会保障、道路や環境整備などの公共事業、小中学校など、お世話になったことがあるはず。その働きがまわるのも税金のおかげなのだ。税金への知識を増やせば、増税と言われて悪いイメージだけではなく、増税を

今払える消費税以外の税金を私たちが払える年齢になるのは、もうすぐ近くだ。そしてその税金の使い道を私たちが選ぶ政治家などが担ってくれている。だから選挙は、なんとなくではなく、自分で理解し、よりよい社会への期待を込めて一票を入れる権利がある。生活していく中で欠かせない税金はまた、よりよい社会を作るためにも欠かせないものなのだ。私のように支援があることで助かる人は大勢いる。税金の使い道はその時その時で変わっていくべきだと思う。私たちの税金でこれからの社会に役立つといいなと思った。